

令和6年度第2回堺市博物館協議会会議録

(司会)

- ・委員の出席状況の報告と協議会の成立を宣言。
- ・傍聴者数（1名）報告

(館長) 開会あいさつ

- ・忙しい時期にご出席いただいた委員の皆様へ感謝。

○第1回協議会での委員からの意見。

- ・学芸員の研究業績・展示実施等の活動の可視化
- ・資料収集・修復の透明性
- ・万博対応（特に英語解説）
- ・ギャラリートークの充実
- ・来館者とのコミュニケーション強化
- ・茶道体験の導入提案
- ・わかりやすい日本語解説文の必要性
- ・市内施設間の周遊手段の工夫
- ・これらの意見は「(仮称)堺ミュージアム構想」に反映予定。

○本日の報告・説明予定。

- ・前回意見への対応状況
- ・万博への取り組み
- ・令和6年度の事業報告と(仮称)堺ミュージアムの整備の進行状況
- ・来館者数は約13万人強を見込む。
- ・今後の運営に向けて、引き続きご意見・ご助言をお願いしたい。

(司会)

- ・協議会委員動向紹介
- ・事務局職員紹介

(禰宜田会長)

- ・議事開始を宣言。

<事務局説明>

議事(1)－① 令和5年度事業報告・研究活動

- ・学芸員の研究活動（調査・講演・出向など）を紹介。『堺市博物館研究報告』で公開予定。

<事務局説明>

議事 (1) -② 令和6年度予算(令和4・5年度決算額)【資料1】

・予算の概要を説明。前回の指摘を反映して前年度との比較資料を提示。

(禰宜田会長)

- ・過去3年間の予算の増減について、上下の変動が見られる。
- ・予算の変動は、年度ごとの予算要求と財政部局の査定によるもので、適切に審査されていると評価。
- ・3年間の推移から、堺市博物館の事業運営の様子が理解できる。
- ・今後も、必要な事業について丁寧に説明し、予算化していく現在の方法を継続すべき。

(土橋委員)

・駅構内デジタルサイネージ広告のほか、「新たな広告媒体による広報活動」とは具体的にどのようなことを行っているのか。

(推進係長)

・駅構内では、JR天王寺駅コンコースで1週間実施。新規媒体は、書店でのデジタルディスプレイを説明。

(土橋委員)

・書店は歴史や文化に関心のある人が集まる場所なので、広報効果があると考えられるが、こうした場での広告展開は、広告代理店などを通じて実施しているのか、それとも別のルートがあるのか。

(推進係長)

- ・広告代理店からの提案
- ・広報媒体の選定理由と実施内容を説明。
- ・書店での広告は初の試み。

(國賀委員)

- ・各年度の比較が一覧で示され、事業の増減が把握しやすくなった。
- ・展示事業では「企画展」と「常設展」があり、それぞれ分けて示すべきである。
- ・資料収集保存事業では「収集」は購入と寄贈、「保存」は事業委託などになると思うので、異なる項目として扱うべきではないか。
- ・各事業の中身をもう少し詳細に示してほしい。
- ・事業の金額の増減の理由を簡単に説明してほしい。

- ・全体として、数字の概要をもう少し詳しく説明してもらえると協議しやすくなる。

(課長)

- ・どのように示せるか検討する。

(禰宜田会長)

- ・令和7年度の取組の説明を求める。

<事務局説明>

議事(1) ー③令和7年度大阪・関西万博に向けた堺市博物館の取組について

○インバウンド対応の改善

- ・常設展示資料(住吉祭礼図屏風、大火縄銃、観音菩薩立像)に英文説明文を追加。
- ・音声ガイドアプリを6月から導入予定。
- ・博物館正面に英語表記付きの新デザイン看板を設置予定。
- ・折り紙の配布をボランティア中心に継続中。

○学芸員による展示解説

- ・万博開催期間中を中心に、毎週日曜日午前に学芸員が展示解説を実施予定。
- ・来館者との対話を通じて、展示品の魅力を伝え、リピーターの増加をめざす。
- ・観覧者の質問や要望を直接受けることで、学芸員の資質向上を図る。

○周遊促進の取り組み

- ・「井上関右衛門家文書の世界」企画展を開催中。
- ・環濠エリアと大仙公園エリアの周遊促進のため、企画展に関連する館で交通経路案内を掲示。
- ・電車・バスの乗り継ぎ案内やレンタサイクル情報を提供。
- ・町家歴史館との連携で、企画展開催中の半券提示による割引制度を導入。
- ・仁徳天皇陵拝所のボランティアガイドに案内ボードを提供し、博物館への誘導を強化。

○令和7年度の企画展(万博期間中)

- ・館蔵品を中心に「色彩」をテーマにした企画展を2回開催予定。

前期：万博イメージカラー(赤・青)に注目。

後期：日本的な色彩(金・黒)を主題。

- ・展示に関連した色に関わる講座や体験活動も実施予定。
- ・茶室活用の推進。
- ・堺市茶室「伸庵」の活用を、堺観光コンベンション協会・文化国際部と連携して進行中。

(國賀委員・禰宜田会長・村田委員)

- ・展覧会の概要の資料による説明や会期の明示が必要。

(課長)

- ・前期展は5月から7月、後期展は7月から9月を会期とする。

(國賀委員)

- ・次年度予算も明確な時期なので、各展覧会についても資料で説明するべきではないか。

(村田委員)

- ・提案された展示解説は、従来とどのように違うのか。

(課長)

- ・新たな展示品解説の手法を説明。これまでは、特別展・企画展開催時に展示解説を実施。
- ・来年度は、学芸員が自信をもって説明できる資料を、常設展示を中心に11時30分頃から30分程度で実施。
- ・今後も特別展・企画展の展示解説も開催していく。

(村田委員)

- ・テーマとする展示物以外の説明を求められた場合はどうするのか。

(課長)

- ・対応できる範囲で対応。

(禰宜田会長)

- ・外国人来館者の統計や傾向について把握しているのか。

(課長)

- ・外国人来館者の傾向を音声ガイド利用状況で把握している。利用言語比率では英語が最多。

(禰宜田会長)

- ・他館の取り組み（来館者の出身地シールを示すなど）を紹介。

(課長)

- ・同様の取り組みをさかい利晶の杜で実施しているので参考にして検討する。

(禰宜田会長)

<今までのまとめ>

- ・資料の作り方に関する意見あり。
- ・予算の変化や現状がわかる資料
- 堺市博物館の取り組みの変化が把握できるようになった点は評価される。
- 予算の推移や現状を反映した、さらなる資料作成を検討していただきたい。
- ・専門外の委員にもわかりやすい資料
- 絵画資料や古墳出土品など、専門的な内容については、写真や図などの視覚資料を添付することで、理解を助ける工夫が必要。
- ・資料の丁寧な作成と詳細なデータ提供
- 複数の委員から、資料の精度や情報量の向上を求める声があった。

<事務局説明>

・議事(2) ー①「令和6年度事業中間報告」【資料2】

■ 展示事業(堺市博物館)

企画展①:「ハニワ大解剖ー埴輪の謎を解き明かせ!ー」

会期:7月6日~9月1日

内容:埴輪の展示、小中学生向けの解説パネル、研究者向けの資料も充実

企画展②:「仁徳天皇陵と近代の堺」

会期:9月14日~11月10日

内容:宮内庁・関西大学と連携、近代皇室と堺の関係を紹介

企画展③:「羅漢・役行者・行基ー山の修行者の系譜ー」

会期:11月23日~12月22日

内容:仏教美術を中心に、山林修行者に焦点を当てた展示

■ 展示事業(さかい利晶の杜)

企画展①:「堺から世界に響け「君死にたまふことなかれ」」

会期:5月18日~6月16日

企画展②:「在りし日の堺ー中世堺の都市景観をたどるー」

会期:9月14日~10月27日

共催:堺市文化財課

企画展③:「近世堺の豪商ー米屋甚兵衛の家業と文化ー」

会期:11月2日~1月13日

■ 展示関連普及広報業務

各企画展に関連して展示品解説、講演会、学芸講座を実施。

体験活動(例:ベビーカートツアー、邦楽コンサートなど)

参加者数はほぼ定員に達し、または超過するほどの関心を集めた。

「仁徳天皇陵と近代の堺」では、宮内庁・関西大学の関係者を招いた講演会を多数開催。

(中委員)

- ・講演会の定員は何名で設定しているか。

(課長)

- ・基本的に定員 80 名。定員を大きく越える時は、別室にモニターを設置。

(中委員)

- ・モニター使用という試みはよい。

(佐藤委員)

- ・普及広報活動の報告は、展覧会と連動した形で整理されており、わかりやすく良いと感じている。
- ・展覧会と関係のない活動（教育・普及関連など）が今回の資料には含まれていないようなので、次回に期待している。
- ・展覧会と連動した活動と、年間を通じた独立した活動の方針（グランドプラン）があるなら教えてほしい。なければ今後の検討課題として提案。
- ・普及広報活動についても普及と広報を区別して整理することが必要。それぞれ分けて資料を作成してほしい。

(課長)

- ・グランドプランや広報普及事業の分類について次回報告を検討。

(禰宜田会長)

- ・グランドプランの提示は重要で、次回に期待する。

(土橋委員)

- ・子どもを対象にした企画展の観覧者統計があれば教えて欲しい。

○「ハニワ大解剖」展に関する質問

子ども向けに工夫された説明パネルがあったとのことだが、実際にそのターゲット層（小中学生など）の来館者数がどれくらいだったかを知りたい。

○博物館来館者の年齢層に関して

現状は、来館者の年齢層は高めが多い印象だが、博物館としては若年層もターゲットにしているはず。今後の全体計画（グランドデザイン）の中で、年齢層ごとの来館促進についても検討してほしい。また、年齢別の来館者統計があれば教えてほしい。

(課長)

- ・若年層の来館者データの把握と分析を検討する意向を示す。
- ・夏休みに、ミュージアムパス&スタンプラリーという児童・生徒とその保護者を対象にした、市内の博物館施設等をめぐってもらふ事案も実施。これも数値の分析を行う。

(土橋委員)

- ・それぞれの企画に対する効果を把握し、将来への検討が必要。
- ・次へのステップにつながるので、ぜひ実施をお願いします。

(岡田副会長)

○シンポジウムでの報告について

- ・さかい利晶の杜 企画展「近世の豪商 米屋甚兵衛の家業と文化」に関するシンポジウムで報告を行った。会場は満員に近い状態。
- ・米屋が所属する具足屋一統の末裔や地元の詳しい方々が参加しており、緊張感のあるシンポジウムであった。

○中間報告の内容に関する指摘

- ・展示事業の具体的内容（共催関連等）が不明確。
- ・普及広報事業の中でも、デジタルサイネージ広告の具体的な内容（どの企画でどこに掲出されたか）が不明。

○報告の整理と今後の方針についての提案

- ・資料と報告内容をより明確に関連付けることで、理解しやすくなる。
- ・他の事業の中間報告が今回はなかった点も気になっている。
- ・年2回の協議会（夏と年度末）で、どの時期に何を報告するかの指針を明確にすべき。
- ・夏の協議会では令和6年度の決算データをもとに、令和7年度予算の方向性を含めた報告が期待される。
- ・同じ内容を繰り返さないよう、報告内容の整理と記録が重要。

(課長)

- ・来年度の協議会での報告方法を検討する。
- ・関西大学との共催は、企画展「仁徳天皇陵と近代の堺」。

(推進係長)

- ・デジタルサイネージ広告を行ったのは、現在開催中の企画展「井上関右衛門家文書の世界」。

(禰宜田会長)

- ・ 議事進行 (仮称) 堺ミュージアムの整備に向けた検討の進捗について

<事務局説明>

議事 (2) -② (仮称) 堺ミュージアムの整備に向けた検討の進捗【資料3】

○現在の堺市博物館・ミュシャ館の課題

- ・ 昭和 55 年開館、設備・施設の老朽化が進行。
- ・ 特別展・企画展専用の展示室がなく、これまで常設展示を一部撤去して対応。
- ・ ミュシャ館はビル内にあり、温湿度の自動調整機能がない。収納スペースが不足し、外部倉庫を借用。
- ・ 美術品・文化財の収納施設が市内に分散している。

○(仮称) 堺ミュージアムの設置目的

- ・ 歴史遺産の継承。
- ・ ミュシャ作品や文化財の集約・保管・展示。
- ・ 市民や来訪者が堺の歴史・文化に誇りと愛着を持てる施設をめざす。

○ミュージアムのコンセプト

- ・ 継承：保存環境の整備、国宝・重文の展示対応。
- ・ 発信：特別展・企画展の独立展示室、常設展の拡充。
- ・ 連携：地域・国内外の博物館、美術館、大学等との連携強化。

○建設予定地・調査研究

- ・ 旧大阪女子大学跡地（仁徳天皇陵古墳西側）を建設予定地として検討中。
- ・ 中世堺の歴史文化に関する学際的研究会を実施中。今年度 2 年目で、3 年間で予定。
- ・ 職員による検討会議・ワーキングで基本構想素案を作成中。

○市民意見の反映

- ・ 市民モニターアンケート（令和 6 年 12 月実施、500 人対象）：
 - ・ 博物館に関心はあるが未訪問者が多い。
 - ・ 古墳時代・江戸時代への関心が高い。
 - ・ 体験型展示、VR/AR、シアターへの期待が大きい。
- ・ 博物館ボランティアとの意見交換会（令和 7 年 2 月実施）。展示案内経験者からの意見を収集・共有。

○今後の予定

- ・ 令和 6 年度：基本構想素案の作成。
- ・ 令和 7 年度：基本構想検討懇話会を設置予定。

○懇話会予算：1,628,000 円（委員報酬等：628,000 円、支援業務：1,000,000 円）。

- ・ 新施設のあり方、展示手法、誘客策などを議論。

(禰宜田会長)

- ・今後のスケジュールについて質問

(課長)

- ・来年度中に基本構想（案）をまとめる。

(佐藤委員)

○アンケート結果より

・「関心はあるが訪れていない人」の割合が非常に高く、潜在的な来館者が多いと考えられる一方で、「訪れたこともなく、あまり関心もない人」も一定数存在し、数字の解釈が難しい面もある。

・グランドプラン（全体構想）と関連して、（仮称）堺ミュージアムに関する設問、特に（仮称）「堺ミュージアムにあれば良いと思うものはどれですか。」は、来館者の体験や広報に関する重要な情報を含んでいる。

- ・博物館での体験は複数の階層に分類できる。

「雰囲気を楽しむライトな体験」「内容に深く踏み込んだ意図的な学びの体験」「ジオラマや音声ガイドなど展示との連動による体験」

- ・今後のプラン策定において、これらの体験の分類や議論が重要になると考えられる。

○博物館における博物館教育に対する過去の取り組み

・2000年頃、日本でも子ども向け教育や博物館の活用に積極的な時期があり、国際シンポジウムを通じて海外の先進事例を学ぶ機会があった。

<台湾の事例>

・台南の故宮博物館南院では、子ども向け体験フロアや写真映えする展示、デジタル体験が充実しており、週末は非常に賑わっている。大人向け展示との融合も工夫されている。

<韓国の事例>

・ソウルの工芸美術館では、デジタル技術を活用した展示と実物資料の組み合わせにより、深い理解や技術伝承が可能。子ども向けには創作活動をテーマにした体験コーナーがあり、街全体も文化観光エリアとして整備が進んでいる。

<日本との比較と課題>

・台湾や韓国に比べ、日本は施設の規模や専門スタッフの配置で遅れをとっている印象がある。

<子どもの博物館体験の重要性>

・子ども時代の博物館体験が将来の文化的関心に大きく影響する。遠足などでの初体験が重要であり、「学び」と「楽しい思い出」の両方を提供することが必要。

<提 案>

- ・博物館の経験において、海外の先進事例に学び、子ども向け体験の重要性を（仮称）堺ミュージアムの設備等にうまく組み込むべき。

（禰宜田会長）

- ・韓国の国立中央博物館子ども博物館は、大人は絶対に入れない。
- ・来年度、海外出張のハードルは高いと思うが、そうした先進地視察の予算化が実現できればと思う。
- ・来年度の検討会でも議論を進めて欲しい。

（課長）

- ・子ども向け体験の重要性を再認識。
- ・基本構想（案）に反映していけるよう検討を進める。

（村田委員）

- ・企画展の中で「羅漢・役行者・行基」の展示は1か月間の開催だったが、1日あたりの観覧者数が多かった。古墳関連の2つの企画展より、大きく上回っており驚きがある。
- ・アンケート結果では、堺の歴史・文化への関心のうち「古代」への関心は12%と低め。これらの結果を、どう評価するかとの質問。

（課長）

- ・行基に興味のある方がたくさんお越しになったと分析。関西文化の日の無料開催日も観覧者数を押し上げた要因。
- ・古墳時代をテーマにした企画展も、前年度と比較すれば増加している。

（村田委員）

- ・非常に好評だった「羅漢・役行者・行基」展の講演会では外部講師を招いていなかった。他の展覧会では外部講師を招くのが一般的であるが、今回はどのような事情によるのか。一方、学芸員こそが最も専門的な知識を持っており、彼らが講演することが最も有意義である場合も多い。学芸員の講演も、外部講師と同等に評価されるべきだ。

（会長）

- ・同様に感じるので、講演会でも学芸員が前面に出て欲しい。

（課長）

- ・「ハニワ大解剖」「仁徳天皇陵と近代の堺」でも学芸員を講師に講演会を実施した。若手学芸員も講演会をこなしていけるよう経験を積んでいくようにする。

(國賀委員)

- ・今回は12月までの中間報告として、展示事業の総括が報告されたが、それに加えて、次年度の事業計画についても第2回委員会で共有してほしい。
- ・年度の総括と前年度の反省を踏まえたうえで、次年度の計画を知ることが重要。
- ・次年度が記念の年や、堺市に関係する人物の節目の年である可能性もあるため、その情報も共有してほしい。

(副館長)

- ・行政としては、予算と決算という節目があり、議会の承認を受けてからでないと公にできず、協議会でどこまで情報を示すことができるかについて悩みながら対応している。
- ・今回の協議会は3月に実施したが、予算案が議論される議会の時期との関係で、示せる情報に限界があったが、もっと踏み込んだ情報提供ができたのではないかという反省がある。
- ・また、次年度の企画展については、実施未定でもイメージを示す形なら可能だったかもしれないが、資料の作成についても、相互の関連性をもっと明確に示すべきだったと反省がある。
- ・資料作成時に工夫はしたが、指摘を受けて初めて分かりにくさに気づいたこともあり、令和7年度の協議会では、より分かりやすく具体的な資料を作成し、有意義な意見交換をめざしたい。

(館長)

- ・今後はより具体的で熱意ある資料作成をめざしたい。
- ・展示のロードマップやプランは2~3年先を見据えて作る必要がある。
- ・次年度以降は、展示・構想・収集に関して中長期的な計画を提示したい。
- ・柔軟な発想と対話を重視した協議会を目指したい。

(禰宜田会長)

- 閉会一会議の要点をまとめ
- 令和6年度の中間報告
 - ・講演会を中心に多くの成果が報告された。
 - ・一部では、新年度予算に対する報告が不十分との指摘もあった。
 - ・次回は最終報告なので、目標達成についての評価や分析・コメントの整理が求められる。
- 普及広報事業について
 - ・グランドプラン（全体構想）の必要性が指摘された。
 - ・博物館側での検討が進められているが、専門家との意見交換の場の設置が提案された。
- （仮称）堺ミュージアムに関して
 - ・従来にない博物館をめざすには、国内だけでなく海外の事例も参考にすべきとの意見。

- ・海外視察の必要性が強調されたが、予算や実現性には課題あり。
- ・まずは海外の事例を聞く機会を設けることが提案された。

○最後に

- ・委員からの貴重な意見に感謝の意を表す。
- ・有意義な会議であったと総括。

(館長) <閉会挨拶>

- ・情報発信の不足を反省。次回はより熱意ある提案を目指すと表明。
- ・子どもとの対話・体験の重要性を再確認。
- ・任期満了の委員への感謝を表明。

(司会) 閉会あいさつ